工事 入札不調

和寒町ケアプロジェクト「わわっさむ」今後の行方は

経緯

本町で計画されている福祉施設建設事業は、工事の入札が不調となりました。

本事業は、社会福祉法人ゆうゆうが事業主体となって進めるもので、町が多額の財政負担を伴う大型事業です。

今回の入札では、参加事業者が1社にとどまり、1回目の入札では予定価格を超過し、2回目は事業者が辞退したことから、契約には至りませんでした。

今後の事業費や工期への影響が懸念されています。

議会での協議

入札不調を受け、議会では全員協議会を開催し、町から状況について説明を受けました。

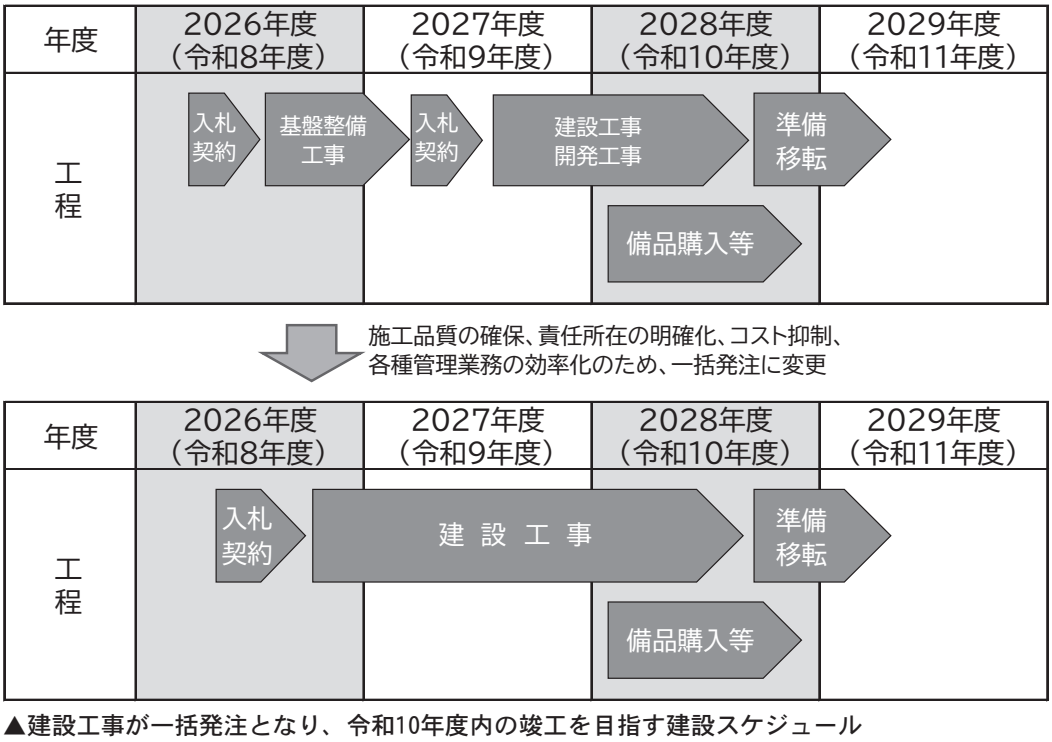
協議では、予定価格の妥当性や積算根拠、入札参加者が1社にとどまった要因、今後の対応などが重要な論点となりました。

また、入札不調から議会への報告までに時間を要したことについても、情報共有の在り方が課題となっています。

今後の課題

現在、設計会社による原因調査が進められていますが、今後は調査結果を踏まえ、予定価格や設計内容の妥当性を客観的に検証することが重要です。

事業費の増加や工期の延長が生じる場合には、町の財政や将来の行政運営に与える影響についても、十分な説明が求められます。



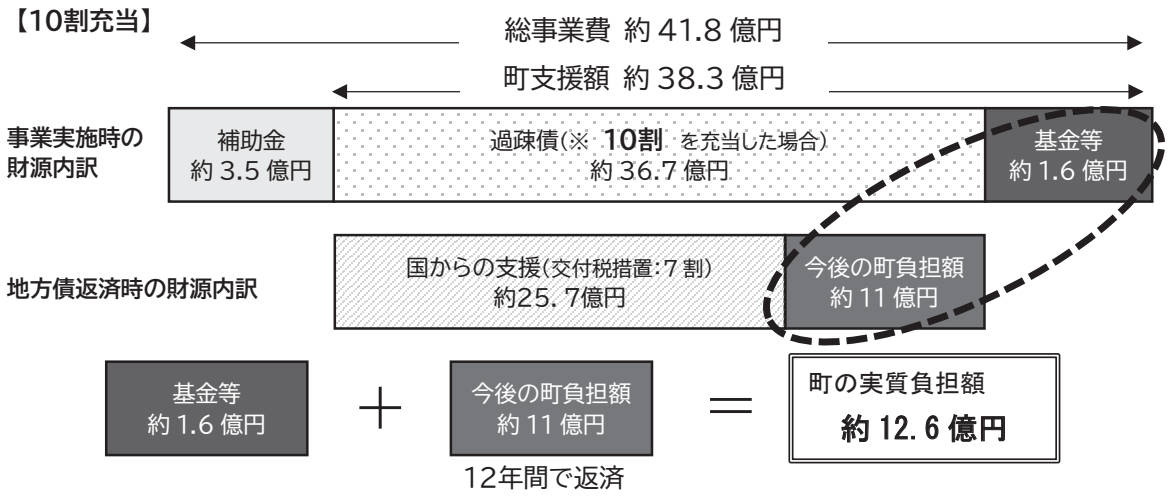
▲建設工事が一括発注となり、令和10年度内の竣工を目指す建設スケジュール

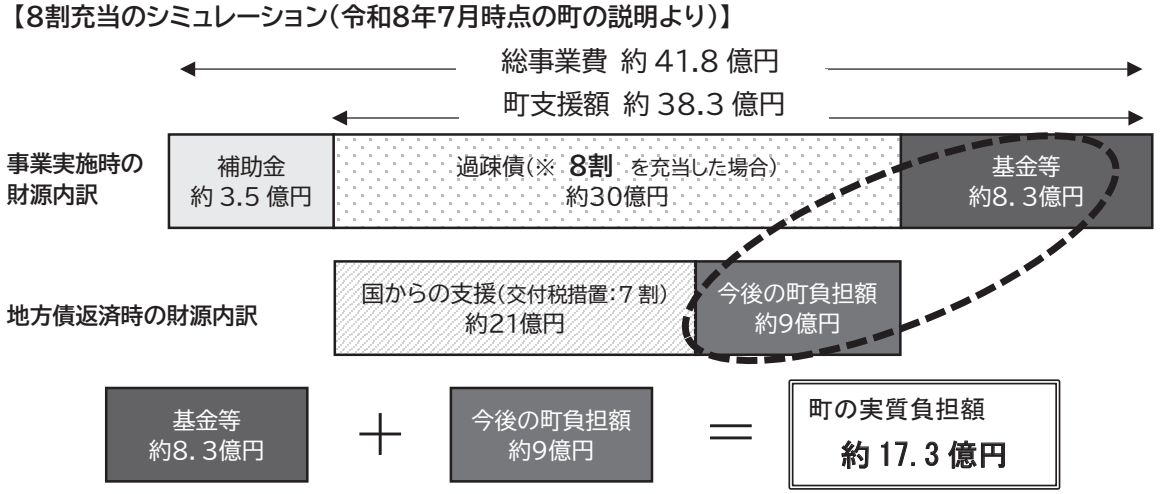
福祉施設建設

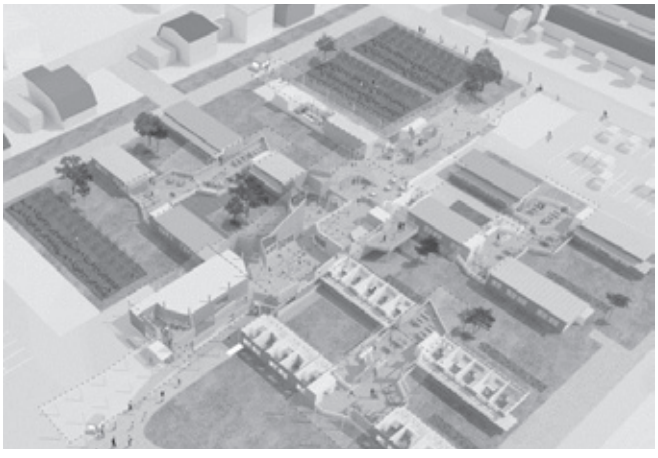
福祉施設建設事業は、７月に実施設計が完了し、建設工事にかかる事業費が確定しました。これを受け、８月の臨時議会において関連予算が審議・可決され、事業は工事発注に向け新たな段階へと進むことになりました。

過疎債の充当率による財政負担の比較（令和８年９月現在）

※過疎債の充当率は変わることがあり、議会は町との協議の中で様々なシミュレーションを求め、説明を受けてきました。







議会として

福祉施設の整備は、町民の暮らしや地域福祉を支える重要な事業です。一方で、多額の公費が投入される以上、事業の必要性だけでなく、費用の妥当性や事業の進め方についても慎重な検証が欠かせません。

議会としては、町民への説明責任を重視し、原因究明と今後の対応を注視するとともに、適正かつ透明性の高い事業執行に向けて、引き続き確認してまいります。